

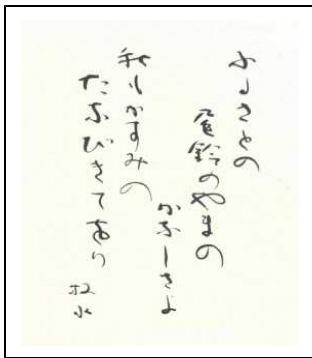
# 文学館だより

令和 3 年 3 月 1 日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982 - 68 - 9511  
文 責 日 高

## うらうらと光り流るる江戸川の岸の桜木いまは咲くらむ

大正 6 年春の詠草。東京小石川区に住む、牧水 32 歳の頃。  
「創作」(4 月号)には『東京の桜は、いかにも綺麗だが、どうも私には、わか葉がさきに出る山桜がなつかしい。(中略)私はむしろ、この山桜をば溪間で見たい』と書いている。  
歌集未収録。『江戸川の水がさまさりて春雨のけふも煙れり岸の桜に』は歌集『白梅集』にある。  
【「夕刊デイリー R3.2.19 牧水のうた」参照】

## 尾鈴山めぐり 延岡～坪谷 120年前の牧水をたどる



牧水先生がふるさとを思うもの・・・。  
「父」「母」「山桜」「坪谷川」・・・そして、きっと「尾鈴のやま」も挙げられるのではないのでしょうか。坪谷に住む私たちにとって、尾鈴の山並みはいつも見ている不変不動の光景です。

ある日、こんなことを想像してみました。  
牧水先生が 120 年前に見たであろう延岡から見る尾鈴はどのように見えるのだろう、坪谷に帰る途中で見る尾鈴は・・・、坪谷で見る尾鈴は・・・と。  
そして先日、尾鈴山めぐりに出かけてきました。



延岡市愛宕山山頂から臨む



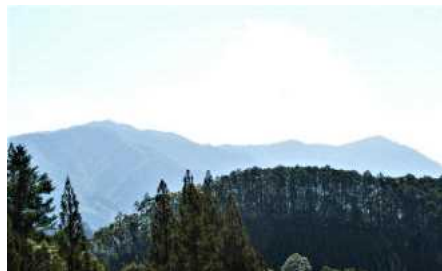
門川町海浜公園から臨む



日向市米ノ山展望台から臨む



東郷メディキット第二工場  
グラウンドから臨む  
(日向市東郷町)



野々崎から臨む  
(日向市東郷町)



生家裏おいなりさんから臨む  
(日向市東郷町坪谷)

雄大かつ秀麗な尾鈴連山を仰ぎ、ほんのわずかですが、牧水先生と共有できたことを幸せに感じました。次回は、都農町側からポイントを絞ってみます。ご報告できる日をしばしお待ちください。

ちなみに、『ふるさとの尾鈴のやまのかなしさよ秋もかすみのたなびきてをり』の歌碑は、『若山牧水歌碑インデックス』によると、県内 5ヶ所に建てられているようです。  
生家裏山 都農駅前広場 宮崎中央卸売市場 美々津カントリークラブ  
九州保健福祉大学構内

## これからの予定

状況によっては変更の場合もあります

日 時	内 容	会 場
3月7日(日)	企画展「若山牧水賞展」～3月28日(日) 今回の受賞者谷岡亜紀さんを前面に、第1回からの受賞者、歌集、自筆色紙が勢ぞろいします。	若山牧水記念文学館
16日(火)	第25回若山牧水賞授賞式 記念講演、祝賀会は中止	宮崎観光ホテル(宮崎市)
17日(水)	若山牧水賞受賞者 学校訪問	延岡学園高校尚学館高等部
	若山牧水賞受賞者 生家、文学館訪問 若山牧水賞受賞者 受賞記念講演会は中止	若山牧水記念文学館
4月11日(日) 9月5日(日) 3月13日(日)	『三浦家寄贈資料公開展 繁と敏夫－受け継がれた二人の絆』展	若山牧水記念文学館
	第1期 プロローグ 敏夫の遺したもの	通年で実施予定です。 詳細は追って案内します。 若山牧水ホームページも ご覧ください。
	第2期 繁と敏夫	
第3期 敏夫と喜志子		
現在開催中	牧水母校作品展 －短歌がつなぐ昔と今－ 牧水先生の紹介とともに、坪谷小学校、延岡高等学校、早稲田大学短歌会の短歌が並んでいます。	若山牧水記念文学館

牧水・エッセイシリーズ『エッセンシャル牧水』『樹木とその葉』『歩く人』3冊セットも揃いました。どうぞ、文学館へお越しください。  
尾鈴山、瀬音、山桜も皆さまのお越しをお待ちしています。

## 令和2年度を顧みる

思いも寄らない事態が全国を襲った令和2年度。私どもも例に漏れず、予定変更を余儀なくされた1年でした。

日向若山牧水顕彰会創立70周年、若山牧水記念文学館開館15周年を記念して、4月から『三浦家寄贈資料公開展 繁と敏夫－受け継がれた二人の絆』展を開催予定でした。延期に延期を重ね、とうとう1年見送る決断をしました。翌4月から、ようやく1年越しの企画展を開催すべく、現在、最終調整に入っています。

牧水祭は歌碑祭のみ開催しました。当初は中止かとの声も上がりましたが、一度も欠かすことなく続けてきたこと、役員だけでも、献酒だけでも、と那須会長が終始強く訴え続け、開催が実現しました。坪谷小学校児童、卒業生(東郷学園7年生)の参加をいただき、両校先生方に見守られ、保護者の方々に見守られ、地元の方々に支えられた記念すべき第70回牧水祭でした。



例年4,000名を超える入館者も昨年は1,000余名にとどまり、兎にも角にも厳しい1年でした。そんな中にあり、牧水先生の便箋封筒セットを何度も注文して下さるお客様だけは、何ら変わることはありませんでした。

文学館、顕彰会を、ご支援くださる皆さま、ありがとうございます。  
これからもお客様との出逢いを楽しみに、一日一日を重ねていきたいと思ひます。

納戸の隅に折から一挺の大鎌あり、汝が意志をまぐるなといふが如くに